

たまがわの風

平成 23 年 5 月 1 日

大阪府立たまがわ高等支援学校

校長室発

NO. 3

校長室からの情報発信を始めるにあたり、いろいろとネーミングを考えていましたが、校歌の 2 番の一節「♪たまがわの風にのせて伝えよう♪」から引用し「たまがわの風」としました。

平成 23 年度 府立たまがわ高等支援学校 経営計画

1. めざす学校像

☆ 知的障がいのある生徒が就労を通じた社会的自立を目指すチャレンジを支援する学校

☆ 個別の適性を正確に把握し、より適切で有効な支援を創造し進化する学校

たまがわ高等支援学校マネジメント3つの柱

○社会的責任（存在価値）

・学校は個人や社会に必要とされ存在し、個人や社会のニーズに応えるために存在する。

○マーケティング（顧客志向）

・2つの顧客（生徒と企業）のニーズを的確に把握し、効果的なマッチングをおこなう。

○イノベーション（継続的な改善・改革）

・時代とともに早いサイクルで変化する社会において、多様な生徒の適性と企業が求めているものを常に把握し、素早く柔軟に支援体制を進化させることができるシステム。

2 中期的目標

① たまがわ高等支援学校の存在価値とその使命

- ・知的障がいのある生徒が、就労という形で社会参加することを目標に、非常に高いニーズに応じて開校し5年目を迎え大きな成果を上げてきた。今後開校予定の高等支援学校に、そのノウハウを引き継ぎ、さらなる進化を目指す。
- ・開校と同時に、枚岡樟風高校に設置された共生推進教室が、平成 21 年 4 月には、千里青雲高校、芦間高校、久米田高校にも設置され、たまがわ本校と4校の共生推進教室という体制となり、毎週1日、4校の共生推進教室生が、本校で職業に関する授業を受けている。本校と4校の共生推進教室との学習指導面での連携体制を年度進行とともに構築を図りながら、その確立をはかる。

② より適切で効果的なマッチングを基本とした指導体制の確立<顧客の創造>

- ・生徒の特性の把握を軸（個別の教育支援計画・個別の指導計画の充実と活用）として、個別の課題を引き出し、適性を広げ、伸ばすことによりキャリアアップを目指す。
- ・制度の変化や時代の変化を敏感にとらえ、企業のニーズに応える人材を育成し、より適切で効果的なマッチングを行う。
- ・双方の満足感を醸成することにより、定着率を上げるとともに、実習先、雇用先の新規開拓の広がりにつなげる。
- ・たまがわ本校と4校の共生推進教室との進路指導の連携体制を構築する。

③ 時代とともに変化する生徒と企業のニーズに反応し柔軟に進化する集団

- ・本校が展開する教育（知的障がいのある生徒が就労を通じた社会的自立を目指す）のプロ集団として、社会の状況を把握し、常に最新の情報とニーズに対応できる機動力のある集団を目指す。
- ・開校以来構築してきた第1次システムを再検証し、5年先を見据えた第2次システムに機能アップさせる。
- ・引き続き、卒業生の80%以上が就労できる体制を常にイノベーションを繰り返しながら機能させる。
- ・進化に対応できる若手人材の育成を図る。